

第2回通学路の更なる安全対策有識者懇談会（R4.9.2開催分） 会議録要旨

懇談会において、各項目におけるこれまでの検討内容とその経過について報告し、有識者の方々によって、主に以下の内容について意見交換が行われた。

(1)交差点の安全対策 / (3)子どもの目線の通学路対策

（短期対策）

- ・交差点に進入する車両ドライバーに対する注意喚起として、交差点の上流で注意喚起路面標示(文字)を、下流で横断歩道カラーを併せて対策することが重要である。
- ・注意喚起路面標示の文字は、田辺通6交差点の特性を踏まえ、信号交差点があること、通学児童が横断することを車両ドライバーが瞬時にイメージできる直接的な表現かつ市内に事例のない表現が良い。

（中長期対策）

- ・交差点コンパクト化は、一部道路の進行方向が限定されることにより、影響を受けた車両が生活道路に入り込む等のリスクがあるため、地域の意見も踏まえた慎重な検討が必要である。
 - ・ラウンドアバウトは、田辺通6交差点における交通量を考慮すると円滑性の観点から難しいと考える。また、道路ネットワークの観点から主道路の交通量が卓越している箇所を物理的に中断することに抵抗がある。その他、用地買収を伴うことや通学路であることも懸念事項となる。
- 今後、市内でラウンドアバウトを導入していくために、導入に係る各種条件について様々な視点から評価・判断できる指針や表を作成し、候補箇所をリストアップすることを提案する。

（通学路の重点対策）

- ・チェックリストについて、下り坂の交差点は特に事故が多いので、重点的に対策を検討した方が良い。
- ・子どもの場合、電柱でも隠れてしまうので、足型マークをうまく活用して、待機場所を明示してあげると良い。

(2)教育、広報、啓発関連 / (4)地域が子どもを守る安全対策

- ・小学生は1人1台タブレットを所有しているので、通学路などの危険箇所を予測できるようなアプリを活用して、安全について考える場や取組みを進めると良い。
- ・ヒヤリハットのデータベース化は、いきなり全市的に展開することは難しいかと考えるので、まずは行政側でプラットフォームを提供し、モデルケース的にどこかの学区で児童や保護者が主体となって試行すると良い。また教材として、児童の行動心理の研究内容なども参考にしたいうえで検討すると良い。
- ・デジタル化はあくまでも手段であり、それをきっかけに家庭や地域で話す機会が増え、長期的には地域コミュニティの活性化にも繋がると考える。

上記の意見を踏まえ、各項目について、関係各局で共有しながら作業を進めていき、今後の有識者懇談会と検討会にて報告することとした。